

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第5回） 会議録

日時	平成25年7月23日（火）午後2時00分～午後4時5分
場所	ときわ会館5階中ホール
出席者 （敬称略）	〔委員〕計10名 秋元智子／石關精三／猪瀬良一／上田彰一郎／久野美和子／ 作山康／中邨登美枝／丸山繁子／茂木泰和／吉田貴昭 〔事務局〕さいたま市 政策企画部：江口部長 企画調整課：松井課長／小島課長補佐／松尾係長／富田主査／ 南主査／池田主任／鈴木主任 〔傍聴者〕1名
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）分野別計画（原案）について （2）（仮称）重点戦略について （3）都市づくりの進め方（素案）について （4）区の将来像（素案）について （5）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・次第 ・席次 ・資料1-1 分野別計画（原案）環境・アメニティ ・資料1-2 分野別計画（原案）都市基盤・交通 ・資料1-3 分野別計画（原案）産業・経済 ・資料1-4 「成果目標」に関する各部会の主な意見 ・資料1-5 個々の成果指標及び目標値に関する意見 ・資料1-6 「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？」に関する 各部会の主な意見 ・資料2 （仮称）重点戦略「さいたま のびのびシティ戦略」 ・資料3 都市づくりの進め方（素案） ・資料4-1 各区の将来像（素案） ・資料4-2 「各区の将来像」に関する区民意見 ・参考資料 市報6月号で募集した市民意見の概要について
問い合わせ先	政策局 政策企画部 企画調整課 電話 048-829-1035

## 1 開会

## 2 定足数の報告

○**司会** さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本日の出席委員は、委員総数11名に対し10名となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

また、森本委員につきましては、本日、ご都合により欠席との連絡が入っておりますので、ご報告申し上げます。

なお、現在のところ、傍聴希望者は1名となっております。

○**作山部会長** はじめに、会議の公開と傍聴の許可について諮りたいと思います。本日の会議は公開とし、傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○**部会長** ご異議がないようですので、本日の会議は公開としたいと思います。

## 3 議題

### (1) 分野別計画(原案)について

○**部会長** 前回、第4回で審議しました分野別計画(原案)につきましては、最終的な作業を部会長である私と久野副部会長、そして事務局にご一任いただきました。

本日は、「環境・アメニティの分野」「都市基盤・交通の分野」「産業・経済の分野」の3分野について、計画の修正点などを事務局より説明していただきます。

(事務局から、資料1-1、1-2及び1-3に基づき、分野別計画原案の修正箇所の説明とともに、資料1-4、1-5及び1-6に基づき、成果目標及び(仮称)皆さんも取り組んでみませんか?の取扱について、調整部会での検討結果の報告)

○**部会長** 「成果指標」については、「少し時間をかけて検討したい」との説明で、これは調整部会の場でも同様の説明があり、調整部会では了承されたところです。分かりやすい成果指標は大事ですが、指標が目的化して、いつの間にか指標だけやれば良いことになりかねないのが悩ましいところですので、その点も含めて検討いただければと思います。その他、計画の内容については、第4回でのご意見も踏まえて、修正いただきました。まだ100点というわけにはいかなくても、概ね修正されているのではないかと思います。ただいまの説明につきまして、内容の確認等のご質問やご意見はございますか。

○秋元委員 環境・アメニティ分野の施策2の施策展開（1）について、3Rの取組の普及・促進のため、色々な方の参加が必要であるという趣旨には賛成します。ただ、「自主的なリサイクル活動等の支援に取り組みます」とあって、なぜリサイクル活動に限定されているのかが分かりません。リサイクル活動に限定せずに「3R活動」として、リデュースやリユースにも参加していただきたいと思います。

○事務局 この部分は、3R全体を意識しているものですが、一番分かりやすい例として「リサイクル活動」を挙げているところです。

○秋元委員 事務局のお考えは分かりましたが、これまでの審議会で丸山委員がおっしゃられていたように、リデュースが一番重要なのです。リサイクルは手段だと思えますので、まずはリデュースの啓発から始めるべきだと思いますが、丸山委員、いかがでしょうか。

○丸山委員 私も同意見でございます。

○部会長 3R活動という表現が一般的であれば、変更してもよいと思います。分かりやすく例示すると、誤解されたり、例示されたことしかやらないということになりかねませんので、ぜひ修正していただきたいと思います。他にご意見はございますか。

○猪瀬委員 環境・アメニティの分野に関して、循環型農業の記述がありません。米を作った際に出る稲わら、酪農で出るし尿、緑化事業での剪定枝などを、いかに資源化するかを考える必要があります。見沼田圃をはじめ、さいたま市は多くの農地を持っているのに、都市的な視点だけで見られていて、循環型社会を展望する視点がないと感じます。

○部会長 事務局いかがですか。

○事務局 今のご指摘は、循環型社会が都市的な表現に偏っていて、農業や緑化に関連した記述がないということでしょうか。

○猪瀬委員 そういうことです。

○部会長 施策2の施策展開（2）の1つめに廃棄物の循環利用について、「焼却灰の資源化」など記載してありますが、これ以外に、生ごみや剪定枝なども含めた、幅広い循環の話が入っていないというご指摘だと思います。

○事務局 現段階では、目指す方向性に「環境負荷の少ない循環型都市」と大括りに記載していて、また、現状と課題には、分野に限らず記載しているという認識です。こ

の記述で物足りないようでしたら、農業や自然関連の施策に書き込むことが可能かどうか検討することになりますし、あるいは、次に審議いただく重点戦略の中で検討させていただければと思います。この施策に、農業関連の施策展開を1つ立てるのは、なかなか難しいと思います。

**○猪瀬委員** 国でも進めている緑という産業を捉えなければ、従来型の第1～3次産業のようなもので終わってしまいます。地産地消という言葉がありますが、さいたま市は、緑豊かで、かつ東北や関東、北陸に開かれている地域であって、この意味で、農業や緑化産業の拠点になり得えますので、そうした意欲をしっかりと打ち出していくべきだと思います。

**○部会長** ご指摘については、産業・経済の分野で言いますと、施策2の施策展開(2)にある「環境・エネルギー分野の関連産業(中略)成長分野におけるイノベーションの創出を支援します」という部分に含まれる話として展開してもよいと思います。

あるいは、前述したように、循環型社会の話を強調するのであれば、環境・アメニティ分野の施策2の施策展開(2)の部分に、資源のリサイクルやごみの有効利用などに関する項目を少し追加してはいかがでしょうか。

**○久野副部長** おっしゃっていることが分かりました。ごみや廃棄物というのは従来型の概念なので、5～10年先を見据えて、農業を含めすべてのものが持続する社会となるためには、動脈産業から静脈産業までが循環型となるルートを、きちんとつくる必要があります。例えば、農作物の葉や茎等は、肥料や飼料として利用できるのもので、ごみという概念ではなく、人間が食べたものを、さらに他の生物が食べるといった循環型社会をいかにつくるかが大切で、そうしなければ、本当の意味での省エネや環境保全にはつながらないと思います。

バックキャストという考え方があって、5～10年先の未来を考えた上で、遡って今から何をすべきかを考えますと、計画中のどこかに循環型社会の定義を入れながら、ごみという概念ではなく、循環という概念に基づいて、農業をはじめとして、他の生産から消費、その後の活用などをするという考えを、うまく施策に盛り込みたいというご意見だと受け取りましたが、重要なことだと思います。

**○部会長** 事務局は、ただいまのご意見の修正の可能性についてどのようにお考えですか。確かに、施策2のタイトルには「循環型都市の創造」と大括りに書いてありますが、施策展開の内容がやや狭い印象はあります。

**○事務局** 今の副部長のお話は、施策3に関連するもので、人と自然が共生するサイクルをつくらうということだと思います。以前、里山についてもご意見をいただきましたが、循環の中に農業の営みが組み込まれていくようなサイクルをつくらうということだと思いますので、この場で、具体的にどこに記載するかお答えはできませんが、

そういった視点をどういった形で表現できるか検討したいと思います。

○副部会長 ぜひ入れた方が良いでしょう。さいたま市らしい、未来志向型の先鋭的なものになると良いと思います。

○事務局 施策展開として記載しますと、具体的な施策との関係もありますので、どこまで先鋭的なものにできるかも含めて検討してみたいと思います。

○部会長 それでは検討をお願いします。他にご意見等ございますか。

○茂木委員 産業・経済の分野の施策2について、言葉の問題ですが、タイトルは、市の「特性」を生かすとなっている一方、目指す方向性は、市の「特長」を生かすとなっているので、どちらかに統一した方が良いでしょう。

もう一つ気になったことですが、施策3の現状と課題の6段落目に、「本市においては、女性・若者の雇用環境が悪化しています」とありますが、市内の雇用環境が悪化しているとは思いません。むしろ人口が急速に増えて、働く人を支援するための施設整備が追い付いていないのではないのでしょうか。今の記述ですと、職場の環境が悪いという誤解を受けると思います。

○事務局 1点目につきましては、「特性」と「特長」を統一できるようであれば、合わせたいと思います。

2点目につきましては、失業率や労働率のデータを基にした記述ですが、「雇用環境」と言いますと、職場環境が悪いと受け取られてしまうというご指摘をいただきましたので、表現のしかたを検討したいと思います。

○部会長 それでは、2カ所を修正するというところで、ご対応をお願いします。他にございますか。

○副部会長 産業・経済の分野の施策2の現状と課題には、市内企業の海外での販路開拓や事業機会の創出など、経済活動の国際化という視点がありますので、目指す方向性にも、グローバル展開のような、世界と伍する強い産業といった視点を盛り込んだ方が良いでしょう。

○事務局 確かに、施策展開には、海外展開支援やイノベーションの記述を追加しましたので、こちらと整合させるという観点から、再度検討させていただきます。

○部会長 他にないようでしたら、次の議題に入りたいと思います。それでは、(仮称)重点戦略について、事務局から説明をお願いします。

## (2) (仮称) 重点戦略について

(資料2に基づき、重点戦略の概要とこれまでの各部会での主な意見について事務局から説明)

**○部会長** (仮称) 重点戦略については、前回の部会でテーマイメージが示され、意見交換を行いました。その際に、産業については明確でないという意見があつて、戦略の3つ目に加わりました。また、戦略を表すキャッチフレーズになっていないという意見もあつて、今回は各戦略で2案ほど出されているようです。

他の部会のご意見もありますので、この部会だけで決めるわけにはいきませんが、まずは、みなさんのご意見をいただきたいと思ひます。

**○秋元委員** 全体的にソフト面が重点になっていると感じます。例えば、戦略4の本市の特徴には「コンパクトで平坦で、自転車利用に適した地勢」とあつて、重点ポイントには、「自動車利用から公共交通や自転車・徒歩への利用転換」とありますが、自転車利用に適した土地ではあつても、インフラが整っていないところで、どうやって自転車利用を促進するのでしょうか。まずは、自転車利用を促進するための道路整備などを載せるべきではないかと思ひて、ハード対策についてはどうなるのか気になりました。

**○部会長** 戦略の難しいところですが、まず戦略を立ててからハード整備を展開するという方法もあります。道路整備中心で物事が進むと、自転車専用レーンなどの発想がなく道路がつくられてしまうこともありますので、むしろ自転車重視を謳つてから、自転車道路をどのように整備していくか、あるいは、自転車や自動車の専用道路ではないものを考へていくという発想もあると思ひます。

前回の意見交換をもとにして、「子育て」「高齢者」「経済」「環境」「防災」の5本柱に沿つてつくられてはいますが、特に重点ポイントの部分について、ハード対策をより明確に打ち出すことも考へられると思ひます。

他にご意見等いかがでしょうか。

**○副部会長** 戦略2の「アクティブシニアシティさいたま」の重点ポイントについて、高齢者が活躍するという具体的な内容があまりないと感じます。例えば、現在は起業する高齢者が多いので、ソーシャルビジネスなど起業支援について盛り込んで、自ら取り組む高齢者を応援するようなニュアンスを込められると良いと思ひます。

戦略3の「イノベーションシティさいたま」については、都市づくりやまちづくりを目的とするだけでなく、企業などの個別の活動がイノベーションシティを構成していることが分かるように、また、厳しい競争を勝ち抜く主体をどのように想定しているのかが分かるように、産業振興とまちづくりに関する記載がもう少しあると良いと思ひます。

戦略4の重点ポイントについて、現在、電動自転車が盛り上がつていて、技術開発

が進んでいます。例えば、フランスのパリでは、市が積極的に駐輪場を整備し、自転車利用を促進していて、そのことで、パリのまちはかっこ良いと言われるブランド力に貢献しています。せっかく低炭素なまちを目指すのであれば、このようなブランド力を持たせてはいかがでしょうか。埼玉は自転車保有台数日本一で、電動自転車については産学連携で盛り上がりつつある分野ですので、少なくとも、「次世代自動車の普及促進」だけでなく、電動自転車の普及促進も加えて、市として積極的に取り組み、ブランド力をつけていくよう、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

**○部会長** 私も同様のところが気になっていまして、戦略2については、これから増えるであろうソーシャルビジネスに加えて、コミュニティビジネスやボランティアも含めて、ビジネスとして成り立つように、高齢者の活動の場や支援の場をイメージできる言葉が必要だと思います。

戦略4は、まずキャッチコピーについて、案1の「エコシティ」は多くの自治体で用いられている表現なので、案2「グリーン・スマートシティ」の方がさいたま市らしさを出せて良いと思います。

自転車保有台数が最も多く、さらに自転車メーカーが多い県でもありますので、電動アシスト付き自転車の可能性はあると思います。非常に便利で、遠くまで行けるので行動圏が変わると言われています。この電動アシスト付き自転車はまだ高額ではありますが、無駄な自動車を使わないためにも、市内にある電動アシスト付き自転車の希少価値を評価することが考えられます。また、大学では、学生が校内で利用するための自転車が放置されていることが多いので、無駄にたくさん購入しないことにも注目すると良いかもしれません。それから高齢者向けに電動アシスト付き三輪車があれば、自転車よりも安心して運転できるので、健康にも良いですし、積極的に取り組むと面白いと思っています。県で進めているスマートサイクリングを軸として、積極的に進めていくことはあり得ると思います。

戦略3については、先ほど指摘がありましたが、国際的な戦略が欠けているので、世界の中で市がどうあるべきかという視点で、重点ポイントに何か打ち出していく必要があると感じます。

最後に戦略1のキャッチコピーについての質問で、「子育て」の意味が分かりにくいのですが、定義はあるのでしょうか。

**○事務局** 「子育て」について特に定義はありませんが、「子育て」は親が主体になる一方、「子育て」は子どもが主体になるというイメージで用いています。他の部会でも分かりづらいというご意見が出ているところです。

**○部会長** 分かりました。他にいかがでしょうか。

**○秋元委員** 戦略1～5は重複する部分が多いと感じます。例えば、戦略5の防災には、非常時のエネルギーセキュリティの問題が関連しますし、戦略4の低炭素には、先ほ

どお話のあったように、地産地消の促進や地域循環型社会の形成が関連していて、すべてが有機的につながっている感じがします。5つに分けると共通する部分が見えなくなってしまうのですが、このように分けるのでしょうか。もう少し有機的なつながりが分かるような見せ方をすると良いと思います。

**○部会長** 戦略は、従来の縦割で物事を考えるのとは違って、テーマ型あるいは横断的につくるものですが、あまり横断的にすると重複してしまうのが悩ましいところです。ですから、切り口をどのように設定するかが問題でしょう。前回の部会ではこれら5本柱で概ね良いことになりましたが、斜めの視点で切るなど、違った視点があるかもしれない。

**○副部会長** 戦略をつくる作業は難しく、事務局は苦勞されていると思うのですが、図を用いて全体の横断的な関係性を示すことも考えられます。

**○石關委員** この重点戦略はよくできていますが、何となく漠然としているので、先ほどお話が出たような見沼田圃や地産地消のこと、特に子どもの農業体験などを取り入れると良いと思います。

**○吉田委員** 先ほどのサイクリングロードの話に関して、サイクリングステーションがなければならないと思います。見沼田圃、荒川、元荒川などを回って、市を一周するような戦略的な計画を立て、色々な産業にもつなげて、低炭素で空気がきれいなことをキャッチフレーズにできれば、サイクリングに来る人たちも増えると思います。見沼田圃にサイクリングステーションがあれば、電動自転車を充電できたり、物産を販売する場所として地産地消にもつながりますので、自転車で市内を回れるような楽しみのあるさいたま市としていただきたいと思います。こういうことにつながるキャッチフレーズがあれば、なお良いと感じています。

**○部会長** 自転車の駅のようなものですね。低炭素まちづくりを語る時に、自転車を代表させて語ることも一つの戦略だと思います。

このほかキャッチフレーズについても、どれが良いかなどご意見をお願いします。

**○茂木委員** キャッチフレーズについてはありませんが、戦略5に関連して、市の強みや良さを活用を打ち出した方が良いと思っていて、以前は海に面していないことで産業を展開しにくかったのですが、震災があって、今は海がないことが逆に強みと言えるので、できれば首都東京のバックアップ都市のようにすることも考えられると思います。

**○中邨委員** 先ほどからお話が出ていることですが、私も戦略1～5は、分野別計画の括り方を変えただけのように感じています。「のびのびシティ」とは何なのか、市が



目指しているものが見えてこないで腑に落ちません。このため、重複している記載に目が止まってしまい、例えばキャリア教育に関することは、戦略1と戦略3の両方に含まれていて、どちらを見れば良いのか分からないと感じました。また、戦略1にキャリア教育も含むのであれば、「子育て」というキャッチフレーズは当てはまらないので、他に言葉がないものかと感じました。

**○丸山委員** 先ほどの秋元委員のお話は、戦略2や戦略3にも関係することで、公共交通や自転車、徒歩の利用を進めるために、その基となる交通インフラや道路整備などの遅れを回復するよう、都市基盤整備を前面に押し出すような文言を入れていくことができれば、戦略2～4の記載の基となっていることを感じられて良いと思います。

**○秋元委員** さいたま市を含め都市の現状として、核家族化によりコミュニティがなくなっているため、地域で子育てができないことなどが問題になっています。また、大家族で暮らす方が低炭素になりますので、三世代同居が減ることは環境問題にもつながります。このように都市で問題となっているコミュニティについて、どこにも記載されていないと感じましたので、コミュニティの創出に向けて、住居施策で三世代同居を進めるなど、何か施策として打ち出せるものはないのでしょうか。

**○部会長** ご指摘の点は、当初から議論があったことで、現在、市では地域ごとのまちづくりが進められており、区民会議も展開していますが、それらが必ずしもコミュニティの充実につながっていないという現状があります。そこで、戦略5の防災と組み合わせることで、コミュニティを再認識させるという戦略となっています。もちろん子育てや高齢者支援から、コミュニティの充実を語ることも考えられますが、なかなかうまくいかないで、防災の面からコミュニティの大事さを感じさせることにしています。また、防犯の面でも、地域のコミュニティがしっかりしていると犯罪が起りにくいと言われていています。このため、戦略5はコミュニティの充実を謳う重要な戦略と言えます。

**○猪瀬委員** 核家族の問題と関連しますが、私たちが農園をされていて出会うのは農家などの旧住民ですが、新住民と協働するような仕組みがなければ続けられないと思います。まちの成り立ちを辿らなければ展望は出てこないと思いますが、この戦略はまるで新しいまちをつくるようで、カタカナ語も多く、どういう現状を踏まえて、誰とまちをつくっていくのかが見えにくいというのが率直な感想です。

**○部会長** いずれ人口は減少し、高齢化率は高くなりますが、今後7年間においては人口が増加することを意識しながら、新しい取組を展開することも考えられますので、特に新住民のためだけにやっているわけではないでしょう。

先ほどの居住のしかたの話をしてしまうと、これからは、三世代同居は難しくても、近くに住む近居や隣居がしやすいという強みのあるまちを目指すことも考えられます。

そのために、どこを強調するかというと、防災、高齢者支援、産業、低炭素など色々な視点が考えられますので、必ずしも従来のようにきれいに分けることはできないと思います。

**○中邨委員** おっしゃる通りで、さいたま市の暮らしのイメージ、さいたま市に住むとこんなに幸せであるというイメージがないと思います。これがあれば、例えば子育て世代やシニア世代が幸せを感じられて、5つの戦略が生きると思いますが、現状は5つがそれぞれ分かれてしまっています。さいたま市でどんな幸せな暮らしができるのかを明確に打ち出せると、市民はそれぞれの立場で戦略を見られますし、市の担当者も事業を考えやすいと思います。この軸が揺れ動いてしまうと、この基本計画に沿わない事業が出てくることになり、もったいないと思うので、何か打ち出せないものでしょうか。

**○副部長** さいたま市は企業よりも個人の税金で成り立っているのです、少なくとも産業都市ではなく、生活文化を軸とした都市であって、また市では色々なことに取り組んでいて、恵まれた地域だと思います。市内の人は分からないかもしれませんが、自信を持ってよいと思います。例えばつくば市のようなクローズされた研究開発都市とは違って、オープン性があり、首都圏との交流拠点にもなっているのです。明確な特徴はありませんが、市民や市役所など全体的に高い水準にある中で、5～10年先にいかに飛躍するかという戦略が書かれているわけですが、市内の人から見れば、もっと尖ったものがあつた方がよいと思うのでしょうか。

そのためのキーワードを挙げるとすると、健康生活文化都市だと思います。現在、医療イノベーションに関わっていて、医療や福祉機器を中心にしていますが、将来的には予防医学や健康都市づくりなど個別化医療に転換していきますので、健康・生活・文化というキーワードが、さいたま市には当てはまると思います。例えば、自転車や見沼田圃などを活用して、病気になるような環境を整え、健康生活文化の未来型の先導都市になれば良いと思います。今ある取組全体をうまく集合して、意識的に取り組めば、おそらく5～10年先の未来には、さいたま市は脚光を浴びる可能性があると思います。

**○秋元委員** 各論の話になりますが、さいたま市は地形的に非常に暑い地域で、熱中症で救急搬送される方もいて、これにはヒートアイランド現象が関係しています。また、地球温暖化も進んでいて高温状態の日数が年々増えています。今後、ヒートアイランド現象や地球温暖化対策に対する予防が課題になると思いますので、この視点を戦略5あたりにぜひ入れていただきたいと思います。

**○猪瀬委員** 基本的には地主を中心としたストック型社会であって、ストックが分配されても一部分が残り、そこに新住民は関わらずに、またストックされていって、そういった意味では揺るがない安定した基盤があると思うので、それを生かさなければ、

どこのまちだか分からないことになりかねません。それと同時に旧住民は緑を残してくれているので、それを産業や福祉にいかに関活用するかというアイデアが必要です。都心と違って、オペラを鑑賞し帝国ホテルに宿泊するといった楽しみ方はできませんので、さいたま市は、尖ったものよりもほっとした空間として残したいと思っている人が大半なのではないでしょうか。笛吹けど踊らず、金持ち喧嘩せずのような雰囲気があるので、その特徴を生かさなければならず、どこにでもあるエコシティを作っても仕方がないと思います。約1,260ヘクタールの見沼田圃や斜面林という貴重なストックがあれば、先ほどの自転車の話も実現できるので、今あるものをいかに生かすかを考えた方がよいと思います。

今は都内にいた若者も子育てのために市内に戻って来ていて、地域の祭りで御輿を担ぐなど文化の継承も行われていますので、そういった意味で、さいたま市は、ださいけど豊かだと思います。そういう基盤があるからゆとりがあるのであって、ストックをストックできるような提案が必要だと思います

**○丸山委員** 戦略5の重点ポイントについて、「子どもや高齢者の見守り」とありますが、市内でも一人暮らしの問題がありますので、「一人暮らし」の見守りの視点も盛り込むと良いと思います。

**○部会長** 戦略は視点や捉え方が非常に重要で、皆様のご意見を聞いて思ったことは、北関東の中でのさいたま市のポジションが重要であって、鉄道や道路の拠点になっているということです。例えば、私の大学の大学の大宮キャンパスは北関東の学生に最も支持されていて、これは企業や都市も同じことです。埼玉は、神奈川などの雰囲気とは違って、日照時間が長く、天気が良く暑くて、田圃もある広い平野で、圧倒的な拠点性があり、暮らしやすく便利なので、これらを特徴付けて、北関東の中でナンバーワンであることを自覚すべきだと思います。東京と競うのではなく、見方を変えれば、また違った言葉が出てくるかもしれませんので、そういう視点で振り返ってみてはいかがでしょうか。

時間が迫っていますので、次の議題に移りたいと思います。それでは、都市づくりの進め方（素案）について、事務局から説明をお願いします。

### **(3) 都市づくりの進め方（素案）について**

（資料3に基づき、都市づくりの進め方（素案）の概要について事務局から説明）

**○部会長** この「都市づくりの進め方」については、調整部会において骨子案が示され、内容を検討した結果を踏まえて、今回、素案が示されたところです。

ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問はございますか。

**○秋元委員** 第2章の第3節のタイトルにある「真の分権型社会を担う～」の「真の」とはどういう意味が分かりません。現在は違うのでしょうか。

○事務局 どの部会でもご意見をいただいたところです。平成12年の地方分権一括法の施行により、機関委任事務が廃止され、国と地方は上下関係から対等な立場となりましたが、いまだに国による義務付けがあるのが現実で、また法律に規定されると関与できるものもありますので、地方が主体的にできることが、まだあるのではないかという考えから「真の分権型社会」という表現を使わせていただいております。

○秋元委員 国の法律を変えない限りは、「真の分権」は得られないと思いますが、働きかけていくという意味ですか。

○事務局 おっしゃる通りです。

○部会長 他の部会でもご意見が出ているとのことですので、それらを踏まえて検討していただければと思います。

私が評価しているのは、具体的にどうするのか疑問はありますが、区行政をしっかりと強化していくことを強く謳っていることです。

○猪瀬委員 素朴な疑問ですが、この審議会の委員になって、たくさんの資料を渡された時に、これは議員がやる仕事だと思いました。

○副部会長 従来であれば議員が決めることですが、そこが、さいたま市の意識が進んでいるところなのです。

○部会長 市民の代表である議員だけではなく、専門家や市民など色々な視点からチェックするのは正しい社会だと思います。

○猪瀬委員 納税者としては、給料をもらっている議員がやればよいことだと思います。

○部会長 もう一つ、さいたま市の大きな特徴は、市民活動が非常に活発で、レベルが高すぎるので、市民や行政など色々なレベルで揉まれることで、より良いものができていくことが、さいたま市らしいと言えるのでしょう。

ただ、個人的には、ここまでの文章はすばらしいのですが、この後の実現のための具体的な手法が、さいたま市はけっこう遅れているところもありますので、実際どうするのかが気になります。

○副部会長 アクションプログラムについても、審議してはいかがでしょうか。

○事務局 実施計画に関しては、この審議会の諮問事項にはなっていませんが、機会が

あれば、ご意見をいただきたいと考えています。どの事業を選択するかという最終決定は市内部で行いたいと思いますが、どのような事業がぶら下がるのかは見ていただきたいと思っています。

関連することとして、分野別計画では何をやるか記載してあるのに対して、都市づくりの進め方では、どのように進めていくか、どのように進行管理していくかを記載しています。成果指標も含めて、この計画をどのように進めていくのが非常に大事だと考えていますが、成果指標については、9月までにまとめて、12月議会に出すことは難しく、基本計画本編には掲載しにくいと思っていますので、それと前後する形で整理していきたいと思っています。また、行財政改革推進プランも検討しており、そちらも見ただけであれば、実施していることや足りない部分が見えてくるかもしれませんが、この審議会に直接関係する内容ではありませんが、タイミングが合えば、見ていただければと思います。

今後、答申いただいた後に集まっていたかどうかは、事務手続きの問題もありますが、基本計画を審議して終わりではなく、できれば何らかの形でご意見をいただければありがたいと思っています。

**○部会長** 今のお話から感じたことですが、行政評価などのチェック体制について、一般的にはPDCAサイクルを強調しますが、あまり強調し過ぎる自治体は、行政評価ばかり気にして、新しい施策展開を控えてしまいますので、チェックのシステムはあって、当然行うこととして、わざわざ記載する必要はないと思います。

**○事務局** 他の部会からは、進行管理のチェックが生きていないのではないかというご意見をいただいています。正直、職員は多くの時間をかけて、分野別計画の進行管理をしていますが、それが果たして市民が感じるものと合っているのかという点と違うかもしれないということで、この総合振興計画は最上位の計画ですので、市民に伝わるようなチェックでなければならないと考えています。

**○副部会長** 成果指標は、最終的には出すのですか。

**○事務局** 成果指標は出したいと思っています。ただ、先ほど申し上げたように、基本計画に直接書き込むとなると、9月にまとめて、12月に議案として出すこととなりますが、今までの議論の内容から、それまでにまとめると中途半端なものになってしまうので、議案とするのは難しいと思います。

事務局のイメージとしましては、本体を進行管理していくために、別冊の取扱説明書のようなものを作って、その中に成果指標を位置づけていくことを考えています。私の個人的な意見としては、審議会などで議論いただいたことで核になることがあれば記述を残しておきたいと思っており、最終的な計画書だけでは、どのような議論があったのか分かりませんので、そういうことも含めて、議案とは別に、計画を動かすための取扱説明書を、今年度内に整理したいと考えています。

また、実施計画も並行してつくっていて、目標値を定めていますので、その中で成果指標を関連して位置づける方法もあると思います。

ただ、数値が一人歩きすることは避けたいので、本来の目的でご覧いただけるよう、柔軟に進めたいと思います。

**○部会長** 行政内のチェックの仕組みをきっちりする必要はありますが、今の社会は、自分たちの仕事を評価するための仕事が多過ぎると思います。教育現場でもチェックのための書類をつくる仕事が多く、行政も同じだろうと思います。その部分を簡素化しながら、政策立案に時間を取ってもらいたいと思うのですが、ルーティンワークばかりになってしまって、行政が政策立案をしにくいという傾向があるようです。

**○副部会長** 計画策定後に、外部のブレーンなど専門家から意見を聞くような仕組みはあるのですか。

**○事務局** まだ整理は付いていませんが、この次期基本計画が7年間で、実施計画が4年間ですので、4年後には、基本計画を進めるための実施計画が良かったのかどうかを見直すことになり、例えば、その年に全体を見るため、外部の方に議論いただく機会をつくることは考えられると思います。

いずれにしても、計画全体が進んでいるかを評価するには、1年程度では短すぎるので、少し長いスパンで見ていただく必要があると考えています。

一方、実施計画の成果については、事業量を明らかにするなど、市内部でルールを決めてお示しできると思います。

**○部会長** それでは、次に、「区の将来像」について、事務局から説明をお願いします。

#### (4) 区の将来像（素案）について

(事務局から、資料4-1及び4-2に基づき、「各区の将来像」の策定過程等の説明とともに、調整部会での検討結果についても説明)

**○部会長** この「区の将来像」については、ただいま事務局より説明のあったとおり、アンケートやワークショップ、検討懇話会で区民や各種団体からの意見を伺いながら策定してきたということですので、大きな修正はできない状況です。先の調整部会では、多少表現について意見もありましたが、色々な経緯の中でまとめてきたものですので、本日は参考意見としていただければと思います。

今後、「区の将来像」のつくり方、審議会部会の参加のしかたなどに改善の余地はあるかもしれませんが、特におかしい点などがなければ、各区において検討した素案をそのまま生かす方向でいきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(意見・質問なし)

## (5) その他

(第2回総会の開催日程について事務局から連絡)

- ・ 8月5日(月) 午後2時から、浦和コミュニティセンター第15集会室

**○事務局** 次回につきましては、基本計画の中間とりまとめに当たってのご審議をお願いする予定になっております。

ここで、1点、まだ作成中のものですが、資料を配付させていただきます。

基本計画の第1部にあたるもので、策定の趣旨から、さいたま市の状況などを掲載しております。

次回の総会までに一度、お目通しください。何かお気づきの点がありましたら、事務局までお願いします。

**○部会長** 他にご意見はございますか。

**○秋元委員** 次回の総会の後に、会議はどのくらいありますか。

**○事務局** 総会の後、9月半ばからパブリックコメントを実施しまして、10月後半から11月上旬に会議を数回開催して答申をいただく予定となっております。

**○部会長** 特にご意見がないようでしたら、本日の議事は終了させていただきます。委員の皆様のご協力により円滑な議事進行ができました。ありがとうございました。

4 閉会
------

以上